

高度変形で側臥位困難な利用者に 側臥位保持装置を作製し 褥瘡と呼吸障害が改善した一例

府中療育センター 訓練科 杉浦 眞紀、濱田 里砂
小児科 小峯 聡

はじめに

- 重症心身障害者にとって多様な姿勢は不可欠。
- 変形が高度で骨粗鬆症のため骨折をくりかえし、側臥位に対する抵抗が強い症例では、体位変換と安定した姿勢の保持は容易ではない。
- 今回、骨折後に生じた褥瘡と呼吸障害に対して姿勢管理の工夫を行い、改善に至ったので報告する。

症例： 69歳男性,周産期障害後遺症,大島分類 1
169cm,39kg,右大腿骨骨折 4 回,仰臥位で生活

- X年11月5回目の右大腿骨遠位骨折に対して
軟性ニーブレース固定
- X+1年2月深部静脈血栓症による肺梗塞発症
- 4月背部褥瘡発症、5月骨折治癒
- 6月から肺炎繰り返す。
カフアシスト・呼吸理学療法併用するが
- 11月左無気肺発症

身体特徴



亀背、左凸側弯

左胸郭後方突出



左下肢屈曲拘縮

右下肢伸展拘縮

再骨折予防の足台を使用中

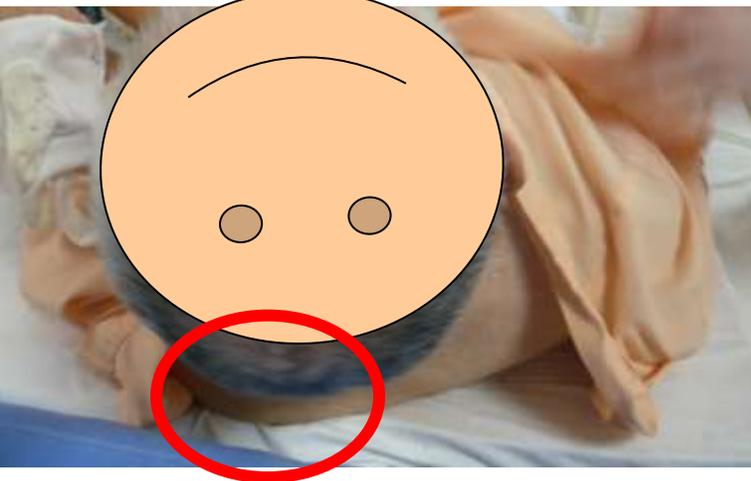


姿勢管理上の問題点 1)動き

左上肢で左膝を抱え込み
胸に押しつけ



右肘を床に押し付けて



突出した左背部のみを支持基底面
として全身を緊張させて
体を安定させていた



左、OK



重い!

右、やだ!

右側臥位に対しては非常に抵抗した



2) 介護上の注意点

右股関節は固まってて
長くて折れやすい足だから
3人以上で動かそう

姿勢管理のための課題

緊張緩和・除圧・楽な姿勢変換と側臥位維持

方法

- 1) 側臥位保持装置と担架シートを作製し、
体位変換と姿勢保持を行った。
- 2) 勉強会で目的・使い方を説明、マニュアル掲示した。
使用状況を検証し、使い方を病棟職員と検討した。

側臥位保持装置の役割

(ジェルトンマット併用)

- ①安定した支持基底面の提供
- ②緊張を緩和させる
- ③左背部の除圧

左右をつなぐ



片方ずつ入れ込む



体を乗せたまま側臥位をとる



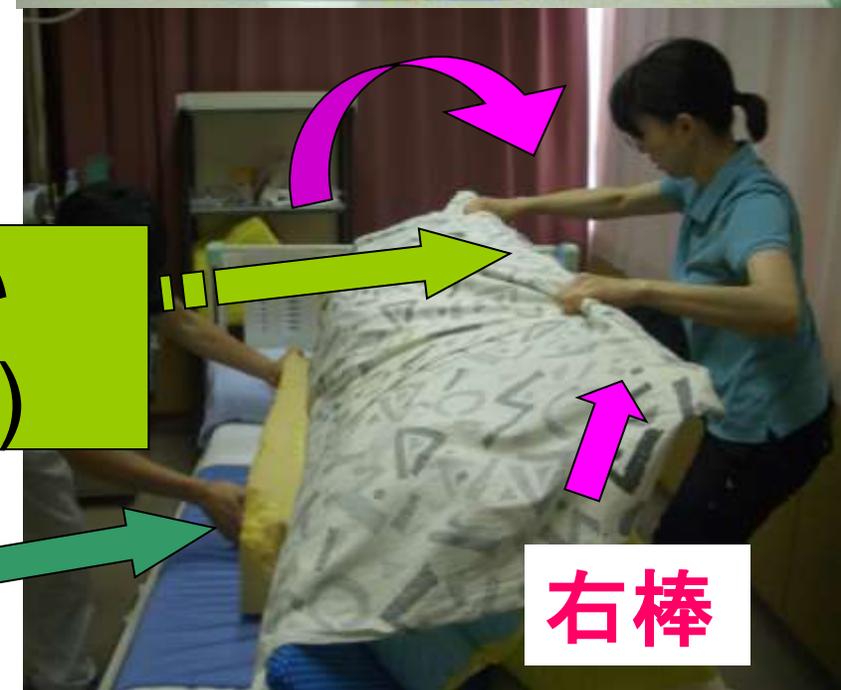
担架シートを使用した体位変換は

- ① ゆっくり行えるのでリラックス保持
- ② 全身一体で安全・安心
- ③ 少人数(1~2人)で可能

上下左右の移動時は
棒にシートを巻き付け操作

体位変換時は各介護者がやりやすい
長さにシートを伸ばして引く(腰痛防止)

三角クッション入れて側臥位に



結 果

装置使用開始直後、酸素飽和度の改善(90→95)と左胸郭背面の呼吸運動改善が認められた。



使用初期から緊張緩和が認められた(看護記録より)
褥瘡は治癒し、再発なし。

X+2年3月以降、9月現在まで肺炎・無気肺罹患なし
(カフアシスト、呼吸理学療法継続中)

体位変換:「少ない人数で楽にできるようになった。」

考察 1

安定した支持基底面の確保

安全安心な体位変換

左突出部が重さから開放

緊張緩和

側臥位をとれる

本来の胸郭運動が再開

深い呼吸の促通

換気改善

体位排痰可能

褥瘡の治癒

肺炎・無気肺の治癒

考 察 2

担架シートの使用で、本人がリラックスしたままでの全身一体型体位変換が少ない人数で可能となり、介護負担が軽減した。

入所者の高齢化・重症化に伴いケアは増加し、同時に、入所施設においては「誰がやっても同じ」という**介護の均質性**も求められている現状では、**介護者の心理的・肉体的負担を軽減する**介護の工夫は重要と考える。

まとめ

- 骨折後に生じた褥瘡と呼吸障害に対して姿勢管理を行った。
- 側臥位保持装置による支持基底面の確保は、
 - 1) 患部除圧を可能にし、褥瘡治癒をもたらした。
 - 2) 緊張を緩和し、呼吸機能改善につながった。
- 担架シートで、より少ない介護人数での安全・安心な体位変換が可能になった。

日本重症心身障害学会 COI開示

筆頭発表者名：杉浦 真紀

演題発表に関連し、開示すべきCOIに関係ある
企業などはありません。